

# 早稲田大学

## 導入の目的

- ・離れたキャンパスへの支援
- ・ゼミ合宿等の時の支援

## 使用した場面

「モバイル型遠隔情報保障システム」(2012 年度)

- －キャンパス内の遠隔情報保障を 1 科目で実施
- －選択科目で、ほぼ教員のみが話す授業



←教室の様子  
(左端が表示用の iPhone)

↓入力している様子



「T-TAC Caption」(2013 年度)

- －キャンパス内の遠隔情報保障を 7 科目で実施
- －夏休みにセミナーハウスでのゼミ合宿で実施

教室の様子 →



←支援側の PC

## 得られた効果

- －支援者が常に隣にいることの心理的負担を含め、利用学生の負担が軽減された
- －遠隔情報保障が使える場面を考える中で、利用学生が支援に対して能動的になった
- －支援学生の関心が喚起できた

## 運用の詳細

### 1. 使用したシステム

- 「モバイル型遠隔情報保障システム」(2012 年度)
- 「T-TAC Caption」(2013 年度)

### 2. 実施場所

- －早稲田キャンパス内  
(障がい学生支援室 ↔ 授業教室)
- －早稲田キャンパス ↔ 鴨川セミナーハウス  
(東京都新宿区) (千葉県鴨川市)

## 利用実績、独自の工夫、苦労した点

「モバイル型遠隔情報保障システム」

- －学内の授業システムに支援学生を登録し、支援学生も授業資料を入手できるよう工夫
- －教室で提示されているスライドがわからないなど、教室の様子が把握しづらい点で苦労

「T-TAC Caption」

- －ゼミ合宿では、ゼミの発表者に発表原稿を事前に送ってもらい、内容を把握
- －電波状況の良い入力場所の確保に苦労

## 教職員、利用学生、支援学生の声

### ・教職員

- －構成がシンプルでわかりやすい

### ・利用学生

- －機材のセッティングの負担が少なくて良い
- －操作がわかりやすい (T-TAC Caption)

### ・支援学生

- －音声の問題は感じないが、先生の話し方によっては聞きづらいときがある
- －教室の様子がわからないのが不安 (モバイル型)
- －教室で打つのと変わらず打てる / 普段より若干連係入力がしにくい (T-TAC Caption)